

復命書

第 43 回 CITRA (国際文書館評議会円卓会議)トレド大会報告

佐々木和子

1)トレド大会概要

テーマ：デジタル世界でのアーカイブの維持
維持：21世紀のアーカイブ保存

(Keeping Archives Alive in a Digital World: Archival Preservation in the 21st Century)

日程：2011年10月22日－29日

場所：Hotel BEATRIZ TOLEDO (スペイン・トレド)

参加：約90国・地域 350名

日本からの参加者：A 会員(国立/ 連館)国立公文書館から高山正也館長、館長(ICA フェロー)はじめ同館職員(専門職団体等) 全国歴史資料関連協議会(全史料協)から代表1名。

日本アーカイブズ学会は不参加。CITRA (the International Conference of the Round Table on Archives、円卓会議)の開催に合わせ、ICAの各種部会が開かれた。例年 SPA (国際文書館評議会専門家団体部会)の運営委員会・総会が開催されるが、本年8月エジンバラで第2回国際会議がおこなわれ、CITRAでは開かれなかった。

注：ICAの会員は、A：国を代表する文書館、B：文書館専門家団体、C：文書館関係機関・企業、D：個人から構成されている。CITRAには、原則A会員とB会員のみが参加でき、全史料協、日本アーカイブズ学会はB会員である。

SPA (専門家団体部門 Section for Professional Associations)は会員の関心、要請に応じて設けられた専門部門の一つである。この他 SAE (専門家研修養成部門)、SMA (自治体文書館部門) LBA (労働・企業文書館部門)などがあり、日本アーカイブズ学会はSAEのメンバーである。

2)円卓会議概要

今大会では4つの全体会と4分科会(計12分科会)が開かれた。プログラムは別表の通りである。テーマに「デジタル世界でのアーカイブの維持：21世紀のアーカイブ保存



会場の様子

(Keeping Archives Alive in a Digital World: Archival Preservation in the 21st Century) かけ、資料のデジタル化やデジタル資料の保存が中心であった。また、新しい試みとしてICAの具体的な活動を紹介するICAアウェアネス・セッションが行われた。

CITRAは、これまで原則カテゴリーAとカテゴリーB会員のみが参加する会議であったが、このアウェアネス・セッションは、公開プログラムとして実施された。プログラムには、「このセッションは、ICAの現在の主なプロジェクトの注意を喚起することを目標とする」と記され、積極的にICAの事業を広く知ってもらい、会を開いていこうとの意欲を感じた。

ただ、報告のほとんどがパワーポイントによるもので、紙資料が配布されなかったことは残念であった。今回も、また、若手アーキビストによる「フライング・レポート」(参加報告)が報告後すぐにインターネット上にアップされたが、取り上げられたテーマは数が少なく、紙の要旨の配布が望まれた。

「全体会3：災害対策と対応」では、高山正也・国立公文書館長が「被災史料を救

え!：荒廃から明日に対する望みの発見まで」と題する報告をおこなった。東日本大震災後の被災状況や史料救出活動の概要などを、パワーポイントを使ってまとめたものだった。国立公文書館、文化財救援委員会、史料ネット、全史料協などの活動の概要を最近の災害経験として紹介した。全体会では、質問はなかったが、終了後、授業で使いたい旨の

このセッションでは、カール・フォン・ハプスブルグ・ブルーシールド国内委員会協会委員長が、ブルーシールドについて、ハイチ地震後の取り組みも含め、概要を報告した。

3) 年次総会

10月28日、総会が開催された。ICA憲章の改正が議題にあがった。これは、1954



高山正也国立公文書館長報告



ブルーシールド国内委員会協会委員長報告

年に第1回パリ大会が開催されて以来、世界大会の無い年に毎年開催してきた CITRA 廃止に伴うものだった。CITRA は今後、1) 年次総会等の運営会合、2) 国立公文書館長フォーラム、3) 専門セミナーの3部構成による年次会議 (Annual Conference) に改組されるという。今後年次会議の専門セミナーの構成はプログラム委員会が担当し、CITRA 事務局が国立公文書館長フォーラム事務局に変更設置すること等が決定された。これまで、CITRA は原則として A 会員 (国立公文書館等) 及び B 会員 (専門職団体等) のみが参加できる会議だったが、年次会議は ICA 会員全員が参加可能な開かれたものになるという。57 年間にわたって、ICA の運営方法を変更する大きな議題であったが、質問もなく、坦々と決まって言ったのが印象的であった。

2010 年の ICA 年次総会で承認された「世界アーカイブ宣言 (Universal Declaration on Archives)」が、UNESCO (国際連合教育科学文化機関) の総会にかけられる運びになったことも報告された。ICA は UNESCO のもとに開設されたものであり、そこでこの宣言が承認されることは大きな意味を持つとして、各国に協力要請があった。なお、この「世界アーカイブ宣言」は、その後 2011 年 11 月 10 日の UNESCO 総会で正式に採択された。

2016 年 ICA 世界大会の開催地は、ソウルに決まった。また、例年であれば、2017 年の年次総会の開催地も公表されるが、今回は来年のブリスベン大会で発表されることになった。

4) 専門施設見学

専門施設見学に、トレド大聖堂アーカイブを訪れた。教会アーカイブの訪問は初めてである。美しく彩色されたアーカイブや数多い資料群に圧倒された。

アーキビストが時間の過ぎるのも忘れて、熱心に説明してくださる様子は、国、地域をこえて、同じアーカイブ携わるものとして、共感を覚えた。

ガイドブックには、観光対象として記されている大聖堂に刻まれている歴史の深さに感銘を覚えた。



トレド大聖堂内アーカイブ見学の様子

若いアーキビストが熱心に説明してくれた

CITRA 2011, トレド (スペイン) プログラム (抜粋)

2011年10月26日 (水)	
20:00	CITRA 開会式
2011年10月26日 (水)	
午前1	<p>全体会 1、基調講演：21世紀におけるアーカイブの保存状況：場面のセットおよび課題と問題の提起</p> <p>1、「電子化された文書館の記録の長期保存に対する認識下の脅威」 David Bearman (設立パートナー、アーカイブおよび博物館情報科学)</p> <p>2、「21世紀に現存する古文書を保管すること：ICCROMの視点」 Mounir Bouchenaki (ICCROM事務局長)</p> <p>3、「保存緊張：デジタル化そのコストおよびオリジナルのアーカイブの継続的な保存」 M Chikhi (アルジェリア国立公文書館長)</p>
午前2	<p>分科会 1 保存のためのデジタル化およびデジタル資料の保存</p> <p>◇保存戦略としてのデジタル化：機会と制限 (フライングレポートあり)</p> <p>司会：Cristina Usón Finkenzeller (スペイン文化省文書複写サービス長)</p> <p>1、セキュリティ・コピー：なぜ私たちはそれらを必要とするのか、Vladimir Tarasov (ロシア連邦公文書館長代理)</p> <p>2、絵は無数のことばを描く：文書館のドキュメントの保存戦略としてのデジタル化、Mayra Mena (キューバ、ハバナ大学情報科学部アーカイブ科教授)</p> <p>◇完全と確実性：運用上の問題：デジタルは紙より挑戦的か？</p> <p>司会：Andreas Kellerhals (スイス連邦文書館長)</p> <p>1、デジタル保存：カナダの手法、Ron Surette (カナダ図書館文書館デジタル保存担当長)</p> <p>2、オーストラリアおよびニュージーランドが構築する電子公文書館：経験および教訓、Stephen Ellis (オーストラリア国立公文書館館長代行)</p> <p>3、ERMシステムにおける記録の大量転換、Jin Hee Yim (韓国、明知大学デジタルアーカイブ研究所)</p>
13:00 - 14:00	<p>ICA アウェアネス・セッション (公開) 司会：Lew Bellardo (ICA PCOM 議長)</p> <p>◇ラテンアメリカの評価：アルゼンチン コスタリカ大学のマリア・テレサ・ベルムデスおよびコルドバ大学のノーマ・フェノッリオによる国際討論会の報告書および業績</p> <p>◇「地方自治体の貴重な記録情報管理」 Mariela Alvarez (アーキビスト、図書館員、コロンビア ボゴタ市長)</p> <p>◇「ICA緊急事態管理プログラム」 Christine Martinez (ICA DSG PCOM)</p>
15:00 - 16:30	<p>全体会 2：討論：公文書館における保存のステイクホルダー</p> <p>司会：Gerrit de Bruin (オランダ国立公文書館修復保存長)</p> <p>パネリスト：・Jonathan Rhys - Lewis (イギリス 保存コンサルタント)</p> <p>・Saroja Wettasinghe (スリランカ公立公文書館長)</p> <p>・Dra. Sofia Borrego (キューバ 国立公文書館生物科学研究助手および教授)</p>
17:00 - 18:30	<p>分科会 2 保存戦略および実行</p> <p>◇現在の課題に照らした保存政策の再調整 (フライングレポートあり)</p> <p>司会：Severiano Hernandez Vicente (スペイン 州立公文書館副館長)</p> <p>1、保存の展望 Per Culhed (IFLA)</p> <p>2、中国の保存戦略 Wang Liangcheng (中国国務院国有資産監督管理委員会保存修復検査常任コンサルタント)</p> <p>◇現実と仮想文書館</p> <p>司会：Yvonne Bos - Rops (オランダ国立公文書館員)</p> <p>1、「国境なき、制限なき、境界なき21世紀の記録保存」 Jerry Handfield (ワシントン州立公文書館員)</p> <p>2、「フランス国立公文書館の新館」 Claire Béchu (フランス国立公文書館)、Jean - Luc Bichet (建築家)</p>

2011年10月27日(木)	
9:30 - 11:00	<p>全体会3：災害対策と対応 協力および戦略的パートナーシップ、災害から私達が学んだこと、前へ進む目的（フライングレポートあり）</p> <p>司会：Jean - Wilfrid Bertrand（ハイチ国立公文書館）</p> <p>◇最近の災害経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山正也（国立公文書館長）「被災史料を救え!：荒廃から明日に対する望みの発見まで」 <p>◇ケルンからの経験からより大きな協力へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Karl von Habsburg（ブルーシールズ国家委員会組織長） ・Dr. Bettina Schmidt - Czaja（ケルン歴史公文書館管理長）「ケルンからの教訓：文化遺産保護のためのモーゼの十戒」 ・Peter Blum, Director（ハイデルベルグ市公文書館）「災害、コミュニケーション、協力、調整」 ・Danièle Neirinck（国境なき公文書館フランス部門長）「ASF-ASFフランス部門とケルンの洪水」
11:30 - 13:00	<p>分科会3 理論および基準から実現へ</p> <p>◇基準を使用する上での利点とは？</p> <p>司会：Hedi Jallab（オマーン マスカット 中東情報技術大学歴史・アーカイブ科教授、議長）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、従来のメディアのための保存基準：私たちは投資のために何を求めるか？ Jonathan Rhys - Lewis（保存コンサルタント） 2、基準：証拠から学びまで Raivo Ruusalepp（エストニアビジネスアーカイブコンサルタント長） <p>◇実際の保存管理</p> <p>司会：Esther Cruces Blanco（スペイン マラガ県歴史公文書館長）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、チリ国立保存センターおよびアーカイブ保存に関連した主な業務、Paloma Mújica González（チリ 国立保存修復センター 紙史料保存主任） 2、タンザニア国立公文書館の公文書の情報の保存、Charles Magaya（タンザニア国立公文書記録館長）
13:00 - 14:00	<p>ICA アウェアネス・セッション（公開 分科会）</p> <p>◇「史料へのアクセス原則の草案に関する公開フォーラム」 Trudy Huskamp Peterson（ICA ベスト・プラクティスおよび基準委員会 アクセスのためのワーキンググループ議長）</p> <p>◇「FIDAとは個人で適用するのか、組織で適用するのか？」 Sarah Tyacke（国際文書館開発財団理事長）</p> <p>Vitor Manoel Marques da Fonseca（ブラジル国立公文書館上級専門員）</p> <p>◇「プログラム委員会はあなたのプロジェクトをサポートします：申込方法」</p> <p>Christine Martinez（ICA DSG PCOM）</p> <p>◇「注意喚起：世界アーカイブ宣言の宣伝目的の使用」 Kim Eberhard（ICA 宗教史料部門）</p>
15:00 - 16:30	<p>分科会4 ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICA 災害対策／「早期対応-被災後損害判定」／「ICA - Req モジュール3の使用」／「ICA AtOM プロジェクトの現在」／「ウィキペディア/ GLAM」
17:00 - 18:30	<p>全体会4 総括：発見、結論、前進</p> <p>司会：Daniel J Caron（カナダ国立図書館文書館）</p> <p>パネリスト：講演者およびICA理事</p> <p>2012年世界会議の発表 Margaret Kenna（議会事務次長）</p>
20:00	CITRA 閉会式（タペーラ病院）
2011年10月28日(金)	
9:00 - 13:00	ICA 年次総会（ICA）